

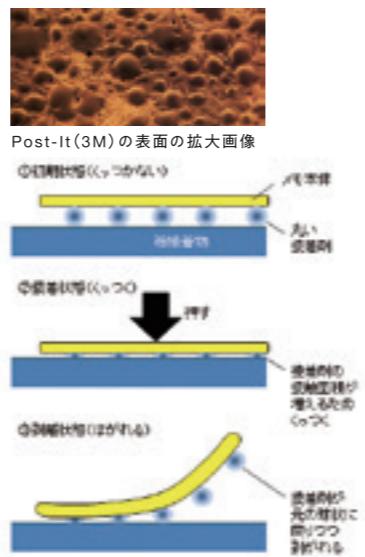
付箋の糊 について

1 ふせんの再剥離粘着剤は3Mが開発しました

- 1969年 3Mの研究員スペンサー・シルバーが強力な接着剤の開発中にたまたま非常に弱い接着剤を作り出す
- 1974年 3Mの研究員アート・フライが「讃美歌集の葉として使えるのではないか」というアイデアをひらめく
- 1980年 糊つき付箋紙を全米で発売

※ふせん紙の黄色が選ばれたのは、研究所で使用する紙片を探したところ、黄色い紙しか見つからなかったことがきっかけです。

2000年 弊社は環境先進国ドイツの水性粘着剤を採用し、ふせんの販売を開始



下記より引用
<https://www.chem-station.com/blog/2014/08/post-it-2.html>

2 再剥離粘着剤について

溶剤系 粘着剤

- 生産効率がよい(乾燥時間が短い)
- 揮発性有機化合物(VOC)を使う
→CO₂排出・健康障害

水性 粘着剤

- 生産効率が悪い(乾燥時間が長い)
- 揮発性有機化合物(VOC)を使わない
→人と環境にやさしい



環境問題の
取り組みの訴求に



できることから
はじめよう
Think for the Earth



人と環境にやさしい
水性糊の付箋

弊社のふせんは

**ホルムアルデヒドを含まない水性糊の
人と環境にやさしいふせんです。**

サステナブルな社会を目指す取り組みは世界中で広がっており、SDGsに掲げられた目標を意識した商品の選択は必須です。

できることから
はじめよう！



人と環境にやさしい
水性糊の付箋

弊社のふせんの糊は、光化学大気汚染や
シックハウス症候群の原因となる揮発性有機化合物(VOC)である
ホルムアルデヒドを含んでいません。
ボトルガムの捨て紙としても使われている
水性糊を使用しています。



ボトルガムの捨て紙としても
使われている水性糊